

Ⅲ－vi. 【事業関連の取組】の推進

Ⅲ－vi－1. 他機関との情報交換および協働

(1) 中国四国地区大学との協働

[参照：本書 pp. 322～325]

1) 取組（施策）の目的および目標

中国・四国地区内における大学内、外における男女共同参画推進を目的とする。

2) 取組（施策）の内容

大学間の緊密な連携を推進するために、毎年中国四国男女共同参画シンポジウムを開催し、更に会議形式で意見交換を進めるために連携会議を開催する。第1回会議では地区内の国立大学を対象を絞るが、希望する関係者であれば誰でも参加できることとし、中国四国地区男女共同参画シンポジウムの開催に合わせて実施する。

また、定期的、非定期的シンポジウム、会議等の開催をとおして、「中国・四国地区国立大学の男女共同参画推進のための共同宣言」に謳われた目的を円滑に進めるために緊密な連携と情報交換を行う。

3) 期待される効果

中国・四国地区内の情報交換がスムーズに行われ、これにより男女共同参画推進に関する連携強化が期待できる。これらをとおして、地区内のすべての国立大学の学長による共同宣言「中国・四国地区国立大学の男女共同参画推進のための共同宣言」に謳われた目的が円滑に進められることが期待できる。

4) 得られた成果および達成状況

第3回中国四国男女共同参画シンポジウムの岡山での開催に合わせ、男女共同参画推進のための検討会議が開催され、次の3項目が確認された。

1. 「中国・四国地区国立大学の男女共同参画推進のための共同宣言」の実施
2. 第4回中国四国男女共同参画シンポジウムの開催
3. 今後の中国・四国地区における連携の強化のための会議開催

検討会議では、今後もシンポジウムの開催に併せて年1回開催すること、今後の会議は国立大学以外の大学についても参加を勧めることなどが決定された。また、今後の連携をスムーズに進めるため、会議参加大学による連絡のための名簿作成が決定された。

5) 取組（施策）の波及効果，次年度以降の継続性および今後の課題

地区内の国立大学間の情報交換，連携強化は一層促進されるが，今後は他の公立，私立大学，高専等の参加を期待し，また大学と地域社会（県，市町村他）と連携を進めることが必要となる。例えば，保育所等の充実，雇用促進など地域社会との連携が重要なポイントとなる場合も多い。

(2) 地域との連携・協働—岡山県，岡山市との連携・協働

[参照：本書 pp. 327～328]

1) 取組（施策）の目的および目標

地域社会との連携により，大学内のみならず社会全体としての男女共同参画推進に対する教職員，学生の意識啓発，意識改革が進展することを目的とし，併せて男女共同参画を協働して効果的に推進することを目的とする。

2) 取組（施策）の内容

男女共同参画室から「岡山県男女共同参画推進センター運営委員会」に委員として参画し，岡山県男女共同参画推進センター（ウィズセンター）の企画等に参加し，岡山大学と岡山県との密接な連携を進める。また，「岡山市男女共同参画社会推進センター運営委員会」の委員として，岡山市男女共同参画社会推進センター（さんかく岡山）の企画等に参画し，岡山市との密接な連携を進める。

さらに，女性サポート相談室相談員が，「女性の人権相談機関連絡会」に参画し，学内のみならず学外から寄せられる相談に対しても，県内の相談所と連携を深める。

3) 期待される効果

男女共同参画推進は，ある団体，地域等限られた社会内で完結することは極めて困難であり，大学内における男女共同参画推進も，広く社会との連携，国との連携無しには達成は困難である。本取組により，県，市，町村等との連携が強化されることにより，大学内における男女共同参画の推進が側面からも支援され，相乗効果が期待できる。また，地域社会との連携は教職員，学生の意識啓発，意識改革に大きく貢献でき，男女共同参画推進にも好結果が得られる。

4) 得られた成果および達成状況

平成 21 年度～平成 23 年度の男女共同参画シンポジウムでは，岡山県からの後援および参加協力を得ることができた。特に，第 3 回中国四国男女共同参画シンポジウム（平成 23 年 11 月 11 日開催）では，県民生活部男女共同参画青少年課長による事例紹介があり，県の推進する男女共同参画事業を知る好機となった。また，女性サポート相談室と「女性の人権相談機関連絡会」との連携により，県内各相談機関の現状を詳細に把握

することができ、情報の共有化が進み、学内外から寄せられる相談に対しても、適切な相談所紹介などに対応できるようになった。

岡山市男女共同参画社会推進センター（さんかく岡山）との連携・協力を深めることで、本学主催の男女共同参画シンポジウム、交流サロンへの参加、講演依頼等が実現し、教職員等の意識啓発、意識改革に大きく貢献できた。（社）大学女性協会岡山支部へと連携も広まり、平成23年1月には、岡山市、（社）大学女性協会とともに本学で講演会を共催することができた。

5) 取組（施策）の波及効果、次年度以降の継続性および今後の課題

相互連携強化、情報交換・情報の共有化等をとおして、社会および大学内の意識啓発、意識改革が進展することで、社会と大学が協働して男女共同参画を進展させることができる。次年度以降も継続実施する。

(3) 岡山大学医療人キャリアセンターMUSCAT との協働

[参照：本書 pp. 326／事業成果中間報告書 pp. 183～187]

1) 取組（施策）の目的および目標

本取組を協働することで、大学内の教職員、学生、特に医療に従事する関係者における男女共同参画に関する意識啓発、意識改革を進展させることを目的とする。

2) 取組（施策）の内容

男女共同参画室では、平成23年度第2回交流サロン『医療従事者として生きるということ』を医療人キャリアセンターMUSCATと共催した。また、平成23年11月26日には、医療人キャリアセンターMUSCATと共催で第2回岡山MUSCATフォーラム『いまを生きるー求められる医療人のカー』を実施した。今後も、岡山大学医療人キャリアセンターMUSCATと連携をとりながら、学内のみならず地域の男女共同参画の推進に貢献できる活動を進めていく。

3) 期待される効果

大学内の教職員、学生における男女共同参画に関する意識啓発、意識改革を進展させることが期待できる。特に、次代を担う医療系大学院生等学生の男女共同参画に関する意識啓発、意識改革を進展させることが期待でき、将来的には極めて大きい波及効果が期待できる。

4) 得られた成果および達成状況

現役の若い医療人、次代を担う学生が、男女を問わず、多数参加し、先輩、後輩の垣根を越えて、医療分野において男女共同参画がいかに必要か、いかに重要か、活発な討

論が展開された。

5) 取組（施策）の波及効果，次年度以降の継続性および今後の課題

医療に従事する現役医療人，学生等の関係者における男女共同参画の必要性，重要性に関する意識啓発，意識改革が大きく進展する。協働事業は今後とも続けられ，男女共同参画を意識した医療人が多数輩出され，将来的には大学内のみならず，社会においても男女共同参画推進の大きな原動力となる。

(4) 学内他部局との連携

[参照：本書 p. 330]

1) 取組（施策）の目的および目標

学内の他部局等との連携により，男女共同参画に関する意識啓発，意識改革を推進するとともに，ウーマン・テニユア・トラック教員にスキルアップ等を目的とする。

2) 取組（施策）の内容

平成 23 年度は下表の通り，部局との共催により開催した。

共催部局名	内 容
大学院自然科学研究科	平成 23 年度第 2 回研究スキルアップ講座
大学院保健学研究科，岡山大学医療人キャリアセンターMUSCAT	平成 23 年度第 2 回交流サロン
学生支援センター学生相談室 岡山県男女共同参画推進センター	DV (Domestic Violence) 防止講演会
岡山大学医療人キャリアセンター MUSCAT	第 2 回岡山 MUSCAT フォーラム
岡山大学教育開発センターFD 委員会	第 2 回メンタリングに関するセミナー 「大学教員にとってのメンタリング実践」
学生支援センター 岡山県男女共同参画青少年課	若者のためのライフデザイン支援事業 講演会

3) 期待される効果

男女共同参画に関する意識啓発，意識改革の推進が進展する。また，ウーマン・テニユア・トラック (WTT) 教員のスキルアップが期待される。

4) 得られた成果および達成状況

学生の参加も増大し，次世代育成面での効果に加え，男女共同参画に関する意識啓発，意識改革にも貢献した。

5) 取組（施策）の波及効果，次年度以降の継続性および今後の課題

WTT 教員のスキルアップに加え，院生の進路，就職活動等にも大きなインパクトを与えた。

また，上記事業以外にも，オープンキャンパス参加企画「理系の魅力 女子高生の皆さんへ」に合わせ，工学部において「女子学生との交流会（ランチョンパーティー）」や「理系に興味のある女子生徒のための工学部案内」を同時開催するなど，次世代育成面での効果が促進した。

Ⅲ－vi－2. 他機関との情報交換

(1) 他大学との情報交換

[参照：本書 pp. 331～332／事業成果中間報告書 pp. 239～245]

1) 取組（施策）の目的および目標

本学事業と同様な趣旨の事業を進めている他大学開催のシンポジウム，講演会に積極的に参加し，本学の特徴的取組を披露し，さらに事業推進に関する情報交換をすることにより，より良い取組を学び，モディファイ・実践することで，一層の効率良い事業・取組の推進を図ることを目的とする。

2) 取組（施策）の内容

平成 23 年度は以下に示すシンポジウム，会議等に参加し，本学の事業，取組を紹介し，他大学等の参考とし，さらに他大学等の事業，取組を学び，本学の事業，取組を精査するとともに，一層深化させる。

- ① 第 9 回男女共同参画学協会連絡会シンポジウム 男女共同参画と社会
[目的] シンポジウム参加，本学事業，取組の紹介，情報交換，情報収集
- ② 筑波大学：女性研究者研究活動支援事業合同公開シンポジウム
女性研究者支援に向けた持続可能な取組の実現
～「モデル的取組」から「研究とライフイベントの両立」へ～
[目的] シンポジウム参加，本学事業，取組の紹介，情報交換，情報収集
- ③ 徳島大学：男女共同参画シンポジウム in 徳島大学「夢ある未来を拓こう！」
[目的] シンポジウム参加，本学事業，取組の紹介，情報交換，情報収集
- ④ 愛媛大学：第 2 回四国女性研究者フォーラム プレイベント
[目的] 本学事業，取組の紹介，情報交換，情報収集
- ⑤ 愛媛大学：第 2 回四国女性研究者フォーラム
「若手の活躍促進～四国のマリー・キュリーを育てよう」
[目的] フォーラム参加，本学事業，取組の紹介，情報交換，情報収集

3) 期待される効果

本学の特徴的取組を披露し、さらに事業推進に関する情報交換をすることにより、より良い取組を学び、本学事業、取組に生かすことができる。

4) 得られた成果および達成状況

本学の事業、取組が広く認知されるようになった。特に WTT 制度の認知度が向上することにより、WTT への希望者の増加が見込まれた。

5) 取組（施策）の波及効果、次年度以降の継続性および今後の課題

本学にとっても有用と考えられる取組の情報を迅速に、正確に把握することが容易となった。本学事業に活用できる取組は、適切にモディファイし、利用した。また、本学の事業内容、取組を紹介し、他大学の参考に供した。より効果的と考えられる取組、アイデアは、お互いに活用しあうことで、全体の事業が推進されることになり、相互にメリットは大きいので、次年度以降のこの種の取組には積極的に参加する。

(2) 本学の取組への他大学からの視察

[参照：本書 p. 332／事業成果中間報告書 pp. 245～246]

1) 取組（施策）の目的および目標

他大学との情報交換を緊密にすることで、新たな取組を知り、また本学の取組を紹介することで、良好な互惠関係を築くことを目的とする。

2) 取組（施策）の内容

香川大学男女共同参画推進室オリーブハート、大阪府立大学女性研究支援センター等からの来学を受け、本学の事業内容、取組内容を紹介し、相互の情報交換等を行った。

3) 期待される効果

同種の事業展開を進めている大学間で、お互いの取組における問題点、成功事例、特徴等を情報交換することで、良好な互惠関係を築くことができ、双方の事業進展を加速することができる。

4) 得られた成果および達成状況

さまざまなアイデア、ヒントを得ることができ、今後の取組に生かすことができる。

5) 取組（施策）の波及効果、次年度以降の継続性および今後の課題

次年度以降も機会があれば、大いに実施する。